メッセージ 公衆衛生の担い手に向けて 第88回

震災の経験を通して保健師活動に期待すること

むかわ町健康福祉課
介護グループ参事
今井 喜代子

北海道立衛生学院保健婦科卒業。昭和61年鵡川町役場に保健師として勤務。平成18年市町村合併により、むかわ町役場勤務、地域包括支援センターに兼務で配属。現在、地域包括支援センター長も兼務。

1 はじめに

むかわ町は、平成18年3月に鵡川町と穂別町が合併して「むかわ町」として誕生しました。合併当時は1万人を超える人口でしたが、現在は約7600人と減少しています。

図 むかわ町の概要

本町では、平成30年9月6日北海道胆振東部地震の発生により震度6強を記録して、建物倒壊などの甚大な被害がありました。

大規模災害時の活動を通じ、日常の保健師活動の在り方が大事であることを感じたので、この経験を通して、今後の保健師活動につながることをお伝えできればと思います。

2 マニュアル活用と柔軟な対応能力

地震発生時は、何をするべきかを落ち着いて考える余裕もなく、まず職場に駆け付けました。要支援者の安否確認、避難所開設時の役割、災害支援団体や災害ボランティアの調整などさまざまな対応が必要です。各種マニュアルが国や団体等で作成されており、災害時の支援体制も整ってきています。災害はいつ起こるか分からないので、すぐに活用できるよう、マニュアル等の存在を把握しておくことが必要です。

さらに調整能力や連携体制、自ら考えて動く力など、保健師に求められることは多くあります。現場では災害の規模や内容によって対応が異なることから、臨機応変な対応ができる力量を培うことが必要と感じました。

3 関係機関と良好な関係づくり

地震当日に、介護事業所の職員から「避難所で過ごすことが難しい人がいる」と相談があり、「通所介護事業所を福祉避難所として活用できないか」と提案がありました。発災当日の夕方には、自家発電などの設備が整っている通所介護事業所を福祉避難所として開設しましたが、介護するスタッフがいないと運営できず、町内3か所の介護事業所職員が自発的に動いて、交代しながら避難者の介護を担ってくれました。日頃から地域ケア会議の定例開催などで、お互いに顔の見える関係があったことから協力関係が築けたと感じています。その後、介護事業所とは災害時の協定を締結し、すぐに対応できる体制をつくっています。

4 日常の活動整理が緊急時に生かされる

本町では、高齢者等見守り支援条例を平成29年に制定し、要支援者から個人情報の提供同意を頂き管理名簿を作成しています。名簿があることで、安否確認をスムーズに実施でき、避難状況の確認などにつながりました。10日目ごろからは他県からの保健師が応援に駆け付けて、要支援者名簿を基に健康や生活状況確認などの訪問を実施しました。知らない土地でも活動できる保健師の力を感じるとともに、平常時の準備があることで受援の調整がスムーズにできることを学びました。

5 ニーズ把握から支援へ

震災の3か月後から、健診時に「心のアンケート」を実施しています。その結果、PTSDのハイリスクに該当する方は比較的若い方が多いことが判明しました。一部住民のみの対象で実施しているため、「町全体のハイリスク者を把握できていないことが不安」と保健師から声が上がりました。そこで、災害ボランティア・社協と協定を締結し「復興支援ネットワーク」を立ち上げ、「在宅支援訪問プロジェクト」として全戸訪問を実施しました。その結果、心身や住宅などのさまざまな課題が浮き彫りになり、関係部署やボランティアの協力を得ながら解決に向けた支援を調整する活動を展開できました。長期にわたる活動でしたが、チームとしてさまざまな職種と協働する機会になったと感じています。

6 支援者のメンタルケアを

震災からの復興支援が終了しないまま、コロナウイルス感染症が全国でまん延しました。災害後の心のアンケートでは、PTSDの項目が高かったのですが、最近はうつに関する項目が高い傾向になっています。他者との交流の機会が少なくなったことなどが要因として考えられます。

役場職員においても、震災後の心のケアが必要な方が多くいました。保健師も例外ではなく、震災後の多忙な状態から引き続きコロナワクチン業務に追われるなど、息つく暇もない状況で余裕がなくなっている方が多くいます。町民の心のケアを考えると同時に、自身の心と生活を守ることも大切であると実感しています。

7 統括保健師としての役割

むかわ町は、鵡川本庁と穂別総合支所との距離が35㎞あり車で45分ほどかかることなどから、本庁・支所それぞれに保健部門と介護部門が置かれ、保健師が4つの部署に分かれて働く体制となっています。令和3年度からは「統括保健師」として発令があり、全体を見て調整する役割を担っています。管理職の立場は、町全体の課題や役場全体の動きが見え、組織に関する意見を伝える機会も与えられます。保健師など専門職の活動を周囲に理解していただき、保健師の育成やキャリアアップ、産休・育休など気兼ねなく休める環境づくりなどを含め、活動しやすい体制をつくることが重要な役割と感じています。

また、保健・介護部門には、栄養士や臨床心理士、社会福祉士、介護支援専門員などの保健師以外の専門職もおり、それぞれの専門性を生かした役割分担が必要となります。事務職や多職種から教えられることはたくさんあります。町全体や役場全体を見て、自分の立ち位置を振り返り、他部署と連携しながら活動全体を調整する力が必要だと思います。

8 おわりに

私がこの町に就職したのは、「顔の見える関係」で仕事がしたかったからです。入職当初は先輩保健師の背中を見ながら、とにかく訪問して歩きました。おかげで町民の顔が分かり、地域の特性や生活が見える活動をしていたと思います。「保健師」と伝えると受け入れてくれる環境は、先輩保健師たちが残してくれた足跡だと思っています。

時代の変化とともに住民の価値観も変わり、IT活用など健康管理や地域把握の方法も変化しています。最新技術で業務量を減らせるものは積極的に活用し、本当に大事にしたい活動を見つけて力を入れることが必要と思います。そのためには、現状と課題を見極め地域特性や住民ニーズをしっかり把握し、組織の中で共有して、自分たちが目指す保健師活動をつくっていってほしいと考えます。そして、困ったときに助け合える協力者をたくさんつくり、保健師間のチームワークを大切にして、住民に寄り添う活動を展開してほしいと思います。